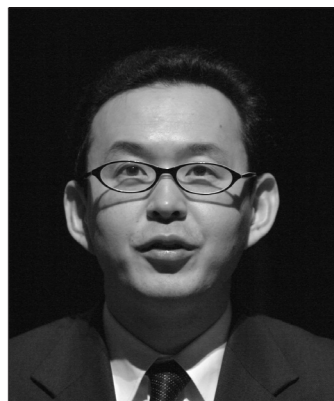


基調講演 政府の情報セキュリティ政策の動向とIT統制



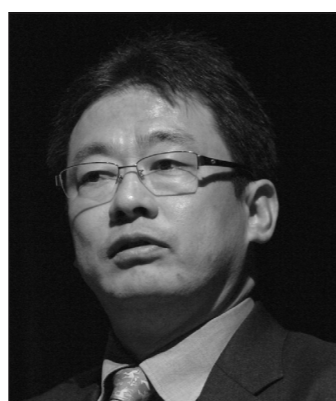
経済産業省商務情報政策局
情報セキュリティ政策室
技術係長
金井 秀紀氏

IT化が進むにつれて、またといった問題が現実にも起きている。従来、こうした脅威はシステマとコンピュータに對する被害が中心だった。時間が経てば、組織や国境、時間を超えて悪意のある者がつながっている可能性がある。改ざんやなりすましといったものが目立っている。

日本経済新聞社は、ISO20000をテーマとした日経産業新聞フォーラム2007を、東京・大手町の日経ホールで開いた。ISO20000は二〇〇五年十二月、英国標準BSI5000が国際規格化される形で制定されたIT（情報技術）サービスマネジメントに関する規格。システム運用を確実にして内部統制の強化を実現する。専門家五氏による講演のハイライトを紹介しよう。

企業経営強化に役立てるISO20000認証

講演1 内部統制に活用できるISO/IEC27001とISO/IEC20000



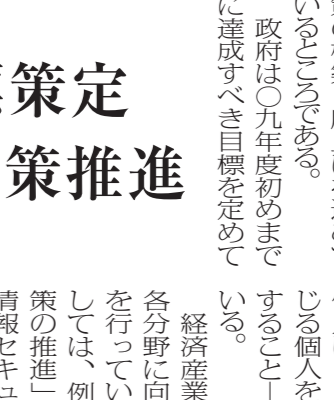
BSI マネジメントシステムジャパン
(旧社名 ビーエスアイジャパン)
認証事業本部開発部長
土屋 慶三氏

企業では違法行為やそれにつながる些細（ささい）な問題が日常的に起きていて、これを許してしまうと、企業の弱さや問題点を考え、対策を立てていくことが求められている。例えば、業務に関する虚偽記載がなぜ発生するかという、機械のミスが原因ではなく、虚偽報告にかかわる可能性が高い人への脅威と、その脅威を引き起こしてしまふ企業の脆弱（せいじやく）性が存在しているから。例えば、経営上のプレッシャーから黒字を装う必要に迫られていると、企業の経営環境が悪化しているとか、取引の失敗などで損失を出したなどといったことが具体的な脅威

企業の弱さ克服する内部統制

内部統制の目的には、業務の有効性および効率性、財務報告の信頼性、事業活動にかかわる法令等の遵守、資産の保全の四つがあり、金融商品取引法ではこのうち財務報告の信頼性が最も重要となる。しかし、そのほかの三つも企業が抱える脅威や弱さにつながるため、適切に対応しなくてはならぬ。

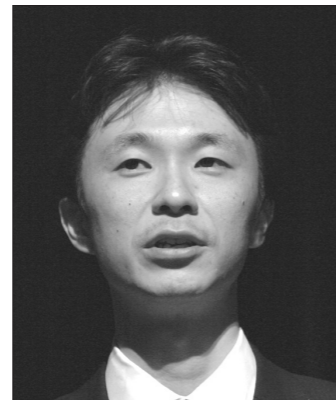
09年度目標策定 官民連携し対策推進



日本情報処理開発協会
情報マネジメント推進センター
ISMS制度推進室室長
高取 敏夫氏

ISO20000は二つのパートに分かれており、パート1が認証の基準、パート2がITサービスマネジメントの実施基準となっている。ITサービスの運用管理には、この分野のベストプラクティスをまとめたITIL（ITインフラストラクチャーライブラリー）の知識やノウハウが活用されており、これとの整合性も取られている。ISO20000をJIS規格化する作業が現在進められており、今年の四月にパート1とパート2に対応する

講演2 ITガバナンス強化に向けたITSMS構築とITSM構築ステップとポイント



KPMGビジネスアシュアランス
マネージャー
熊谷 堅氏

内部統制にはIT部門の活躍が不可欠になる。これまでのITマネジメントシステムは、IT業務処理システムとIT業務処理システムとを別々の業務処理システムとして構築していた。しかし、IT業務処理システムとIT業務処理システムとを統合して一つのシステムとして構築することが必要となる。ISO20000は、内部統制に過大なコストをかけて新たなリスクを生まぬようにする適切なコストの概念を持っている。ISO20000においては、内部統制に必要なものがすべて含まれているが、業務処理システムにかかわる様々な情報については、情報セキュリティのマネジメントシステムであるISO27001で定めることも必要がある。

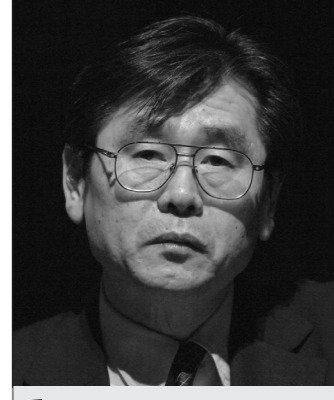
ISO取得には統一ルール重要

ISO取得には統一ルールが重要である。ISO27001とISO20000の両方とも取得する場合は、両者の共通点と相違点を把握し、統一ルールを定める必要がある。ISO27001は、情報セキュリティの観点から、ITシステムの運用管理に重点を置いている。一方、ISO20000は、ITサービスの提供に重点を置いている。両者の共通点は、ITサービスの提供に必要となる業務の範囲を定めることである。この共通点を基に、統一ルールを定める必要がある。

企業価値につながる取り組みを

企業価値につながる取り組みを推進する。ISO20000の導入は、単に法令遵守のためだけでなく、企業の競争力を高めるための取り組みである。ISO20000の導入によって、企業の業務プロセスが標準化され、業務の効率性が向上する。また、ISO20000の導入によって、企業のリスク管理能力が向上し、企業の持続可能性が高まる。ISO20000の導入は、企業の成長を支える重要な取り組みである。

特別講演 ITサービスマネジメントシステム（ITSMS）の重要性



日本情報処理開発協会
情報マネジメント推進センター
ISMS制度推進室室長
高取 敏夫氏

ISO20000は二つのパートに分かれており、パート1が認証の基準、パート2がITサービスマネジメントの実施基準となっている。ITサービスの運用管理には、この分野のベストプラクティスをまとめたITIL（ITインフラストラクチャーライブラリー）の知識やノウハウが活用されており、これとの整合性も取られている。ISO20000をJIS規格化する作業が現在進められており、今年の四月にパート1とパート2に対応する

マネジメントプロセス強化にITSMS

マネジメントプロセス強化にITSMSを導入する。ITSMS（Information Technology Service Management System）は、ITサービスの提供に必要となる業務の範囲を定めるためのシステムである。ITSMSを導入することで、企業の業務プロセスが標準化され、業務の効率性が向上する。また、ITSMSを導入することで、企業のリスク管理能力が向上し、企業の持続可能性が高まる。ITSMSの導入は、企業の成長を支える重要な取り組みである。